



風水害に備えましょう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害のシーズンが近づいてきました。今回は、風水害に対して、日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。

自然現象（大雨、台風、地震など）による破壊力が、防災力を上回ったときに、災害が発生します。正しく「知る」ことで、「備える」ことの必要性を理解し、適切に「行動する」力（＝防災力）を高めましょう。

【知る】

○地域の状況を知る

- 住んでいる地域で過去に起こった災害などをしておく。
- 危険な場所、避難場所、避難経路などを確認し、家族と落ち合う場所などを決めておく。

○気象情報など情報の入手

- 台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。

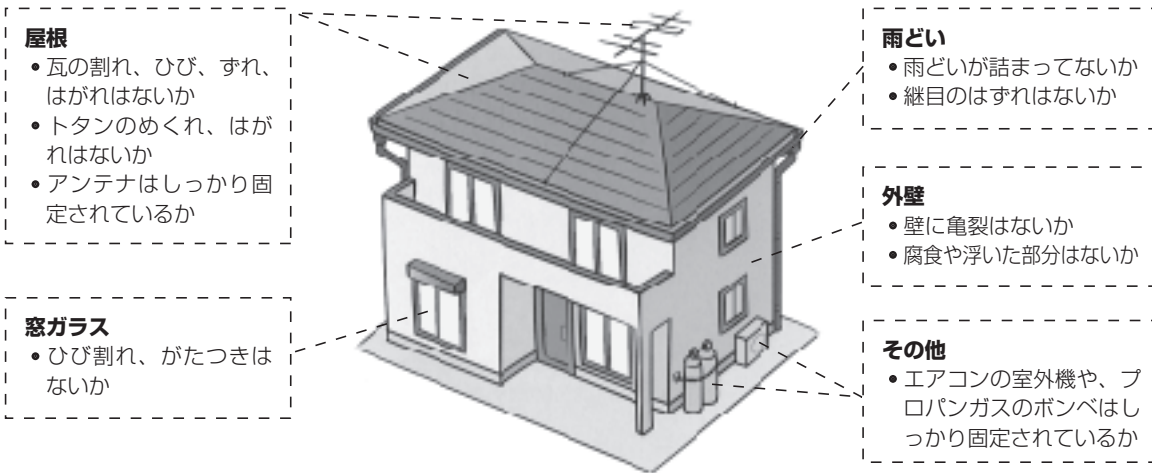
【備える】

○非常持ち出し品の確認

飲料水や食料・避難のために必要なもの（懐中電灯・ラジオ・衣類など）・個人ごとの必需品（持病の薬・生理用品など）

○住まいの点検

- 下の図を参考に自宅の点検をしておく。



【行動する】

○風水害時の避難の注意点

- 動きやすく安全な服装で、足元は運動靴にする（水が入ると動きづらくなるため長靴は使わない）。
- 道路などが浸水してしまったら側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く。
- 単独では行動しない（家族や近所の人と行動する）。
- 避難勧告などが出されていなくても、危険を感じたらすぐ避難する。

また、気象情報の発表や避難の呼びかけを待って行動するのではなく、異常を素早く感じ取るというように、危険を早めに察知する努力が必要です。

以下に土砂災害の前兆現象の例を紹介します。

～土石流の前兆～

- 山鳴りがする
- 急に川の流れが濁り流木が交ざっている
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 腐った土の臭いがする

～がけ崩れの前兆～

- がけに割れ目が見える
- がけから水が湧き出ている
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる
- 地下水や湧き水が止まる

～地すべりの前兆～

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水がふき出す

●このページの記事に関するお問い合わせ、南海地震の体験談のご連絡は以下にお願いします。

【本庁】総務課消防防災係 ☎43-2112（直通） 【佐賀総合支所】総務課総務係 ☎55-3113（直通）